



# 学校だより

墨田区立第三吾孺小学校

校長 川中子登志雄

令和7年2月21日

臨時号

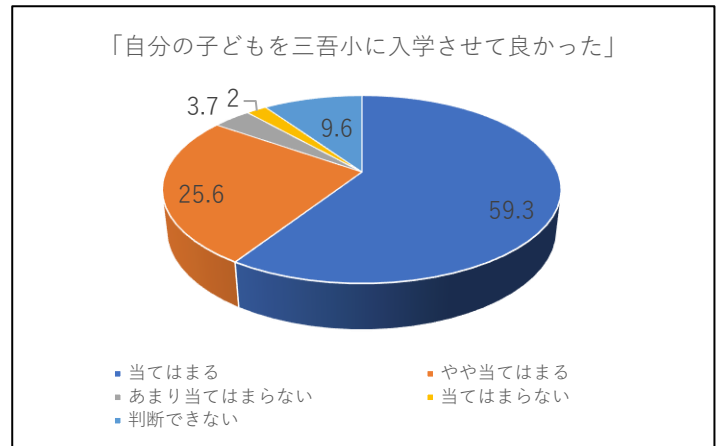


## 「子ども」が主語になる学校へ改革2年目

### 保護者アンケート 回答率(9.5p減)、満足度(7.1p減)

#### ともにダウン

昨年末12月にご協力いただいた令和6年度の学校評価保護者アンケートの結果分析等が終了いたしましたのでご報告いたします。今回のアンケートには全家庭数の82.5%の保護者の皆様にご回答をお寄せいただきました。この回答率自体は、一般的な学校と比較して、決して低いものではありません。第三吾孺小学校の保護者の皆様が、「自分の子どもの通っている学校を良くする」ための行動として、大変有り難く思っております。暮れのお忙しい中、ご協力いただきました保護者の皆様に、厚く感謝申し上げます。



### 令和6年度 学校評価 保護者アンケート集計結果[令和6年12月実施]

令和6年12月

経営評価

回答率(家庭数)82.5% (昨年度92%)

※ 以下は5段階で回答のアンケート結果 その他は別紙参照	単位%	当てはまる	やや当てはまる	否定	昨年度	昨年度差	あまり当てはまらない	当てはまらない	否定	判断できない
1 学校は、積極的に教育目標を達成するための教育活動を推進している。		46.6	36.2	82.8	85.3	-2.5	3.7	2.3	6.0	11.2
2 学校は、児童の主体性を育成するために、全教育活動を通して改善に取り組んでいる。		43.0	38.2	81.2	82.7	-1.5	3.9	2.8	6.7	12.1
3 学校は、基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に、差別やいじめの防止に取り組んでいる。		25.0	32.6	57.6	66.4	-8.8	6.2	4.5	10.7	31.7
4 学校は、個々の児童に応じた支援に取り組んでいる。(主に、不登校傾向・集団生活になじめない児童等)		36.5	28.1	64.6	53.5	11.1	3.9	1.7	5.6	29.8
5 学校は、児童の主体的・対話的な学習を促進する手立てを講じている。		32.6	37.7	70.3	76.2	-5.9	8.1	3.9	12.0	17.7
6 自分の子供は、学習に向かう姿勢が主体的になってきている。(自ら進んで学習に取り組もうとしている。)		18.5	34.0	52.5	58.5	-6.0	24.7	19.4	44.1	2.8
7 学校は、家庭学習を推進する手立てを適切に実施している。		15.2	29.8	45.0	59.5	-14.5	26.4	13.7	40.1	14.9
8 自分の子供は、自主学習に取り組んでいる。		17.4	31.5	48.9	57.5	-8.6	28.1	22.2	50.3	0.8
9 学校は、子供が学校で成長した内容を伝えている。		28.1	41.9	70.0	-	-	12.6	4.8	17.4	12.6
10 学校は、アンケート、校長「語りレシロン」などにより、積極的に保護者の意見を取り入れ、学校の経営改善に取り組んでいる。		39.3	31.8	71.1	77.2	-6.1	3.9	3.1	7.0	21.9
11 学校は、学校公開、学校だより、ホームページ、メール、校長室動画配信、保護者会、個人面談などにより、積極的に教育活動や内容の情報発信に努めている。		69.7	24.2	93.9	95.6	-1.7	2.2	1.4	3.6	2.5
12 上記の取組により、学校の取組や様子把握できている。		37.1	46.9	84.0	88.9	-4.9	5.9	3.9	9.8	6.2
13 自分の子供を第三吾孺小学校に入学させてよかった。		59.3	25.6	84.8	91.9	-7.1	3.7	2.0	5.6	9.6
14 学校からのCOCOOメールはいつも確認している。		51.7	34.0	85.7	86.3	-0.6	10.7	2.8	13.5	0.8
15 保護者として、子供の通っている学校をよりよくなりたいと思う。		59.8	35.4	95.2	94.7	0.5	1.4	0.6	2.0	2.8
16 保護者として、学校の教育活動に協力したいと思う。		34.3	48.0	82.3	81.3	1.0	5.9	2.2	8.1	9.6
17 教職員の働き方は改善が必要だと思う。		32.3	25.3	57.6	49.9	7.7	3.4	1.7	5.1	37.3



回答率が下がったことと合わせて、ほとんどの項目で各質問への肯定的評価も下がっています。これは、全体的には「否定的な評価が増えた」のではなく、「わからない、判断できない」と回答された方が増えたことが原因です。その意味では、現在学校がすすめている改革が、ご家庭の日常にも影響を与え始めていることの証でもあります。

自由記述欄にも、率直なご意見をお寄せいただきました。今年度は、大部分が一律の宿題を廃止したことに関する不安や不満のご意見でした。不安の声からは、学校が「何を目指しているのか」「子どもたちに、どんな風になってほしいと考えているのか」が保護者の皆様にきちんと伝わっていない、という実態が明らかになりました。この報告書が、少しでも、保護者の皆様のご理解につながってくればと願っております。

## ○取組指標（質問 1, 2, 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11）から見えること

「学校（教員）の取組が適正になされているか？」を問う取組指標からは、概ね高く評価いただいている項目と質問7のように肯定的評価と否定的評価が均衡している項目がありました。今年度特徴的な変化としては、質問6「学校は個々の児童に応じた支援に取り組んでいる」の肯定的評価が11.1p向上したことで、回答が「判断できない」から、肯定的評価に移ってきている保護者が増えました。これは、9月から始まった学習室「みどり」の専門支援員の配置など、これまで当該保護者以外には伝わりにくかった部分が届き始めていることと嬉しく思います。質問7については、一律の宿題があった昨年度から14.5pマイナスになっています。これは、学級や学年によって子どもたちやご家庭への伝わり方が違ってしまったことが大きな原因と深く反省しております。

## ○成果指標（質問 6, 8, 12）から見えること

「学校（教員）の取組によって、児童（家庭）にどのような変容がみられたか？」を問う成果指標からは、今回のアンケート全体を象徴する「不安」が昨年度よりも広まっていることが見えてきました。お子さんの様子を見て「学習に向かう姿勢が主体的になってきている」かを問うた質問6は、肯定的評価が6ポイント下がっています。しかし、学校での学習状況を見ていると、ほぼ全員の子どもが昨年度までよりもはるかに主体的に学習に取り組んでいる姿が見られるようになってきています。この評価は、次の質問8「自分の子どもは自主学習に取り組んでいる」と重なっている部分が強いように思われます。

この項目については、昨年度までの一律の宿題が課されていたときと比較して、思いのほか、肯定的な回答が多かったと考えています。肯定・否定が半々という結果は、一律の宿題がなくとも二人に一人の子は、家庭学習に取り組んでいるということです。この結果について、児童自身の学校評価アンケートでは、77%の子どもたちが「自分でやることを決めたりして、家庭での学習に取り組めた」と肯定的に回答しています。「(まったく) 取り組めなかった」と答えた子は5%でした。

質問12の「学校からの情報発信によって、学校の様子がよく伝わっているか」についても、5pほど昨年度までよりも肯定的評価が下がっています。この大きな原因として考えられるのが、土曜学校公開日の半減により、実際に学校の様子を目にする機会そのものが減ってしまったことが考えられます。学校は公開日以外にも、いつで

も様子を見に来ていただくことができます。むしろ、日常的に保護者がいつでも参観している学校になることを望んでいます。昨年末から、6年生の保護者の皆様が学校の様子をよく見に来てくださっています。本当に有り難く、感謝しております。学校の様子をご覧になりたい方は、いつでも本校副校長に一声おかけください。



## ○意識調査（質問13～17）から見えること

経営計画を総括するための指標として、毎年最も重きを置いている項目の一つが質問13「自分の子どもを三吾小に入学させて良かった」の回答です。今年度肯定的評価は、昨年度比7.1p減の84.8%でした。これは、相対的に見れば大変高い評価であり、多くの保護者の皆様が学校の方針を支持し、応援してくださっていることの表れです。（これまで私が着任してから7年間、毎年同じ質問をしてみました。アンケートの回答率が高い（90%を超える）年は、この肯定的評価も90%を超える傾向にあります。）（右表参照）

質問14～16の学校の教育活動に協力したいという気持ちは、大変高い数値で、有り難いと同時に頼もしく感じる部分です。質問17・教職員の働き方改革については、世間での認知も高まり、昨年度比7.7pのアップとなりました。ご理解いただき、有り難く思います。

「自分の子どもを三吾小に入学させて良かった」

年度	肯定的評価		否定的評価		判断できない	回答率
	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない		
R6	84.9	59.3	5.7	25.6	9.6	82.50%
R5	91.9	64.6	2.4	27.3	5.8	92.30%
R4	84.6	60.6	1.8	24	4.6	88%
R3	97.3	77	1.1	20.3	1.8	91%
R2	97.0	74.0	1.0	23.0	2.0	90%
R1	83.3	60.0	10.9	23.3	5.7	52%
H30	87.9	60.4	7.8	27.5	4.3	88%

数値は%

## ○自由意見から

自由意見欄にも多くの保護者（134件）の皆様が貴重なご意見をお届けくださいました。中には、教職員への感謝や労いの言葉も多くあり、大変励みになりました。逆に、お子さんのことで学校の対応が不十分だった点や、校長の姿勢に対する厳しいご指摘もあり、大変申し訳なく思っております。

### 【自由意見概要】

<p>ポジティブな意見: 22.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の取組や教職員の対応に感謝する意見が多い。</li> <li>主体性の育成に賛同する意見も含まれる。</li> </ul>	<p>ネガティブな意見: 19.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体性の育成に対する懸念や、宿題の廃止に対する不満が多い。</li> <li>授業の進行に対する不満も含まれる。</li> </ul>	<p>改善提案: 57.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿題の再導入や、学習のガイドラインの提供を求める意見が多い。</li> <li>学校と家庭の連携強化や、個別の学習支援を求める意見も含まれる。</li> </ul>
---	---	--

（Microsoft Copilot を使用して、全体の意見を要約、概要を生成したものです。）

今年度、一番大きな話題になっているのが「一律の宿題の廃止」についてのご意見です。



第三吾婦小学校では、令和6年度後期より、これまで各学級で一律に課していた「宿題」を廃止し、新たに「自学のすすめ」による家庭学習を推奨しています。この廃止については、令和4年度より保護者の皆様に説明を開始し、段階的に「一律の宿題」を減らしてきました。もちろんのことですが、子どもたちの中には「（一律の）宿題がなくなってラッキー！」と思っている子もいますし、「（勉強は自分ですることだから）別に何も変わらないじゃない。」と思っている子もいます。

今回のアンケート結果からは、概ね、高学年の保護者の皆様が肯定的評価が高い傾向にあり、低学年の保護者の

ほとんどの方が強く不安・不満を感じていらっしゃる事が明らかになりました。

一律の宿題を廃止した理由は、ひとえに「児童の主体性の育成」のためです。今、学校では児童の主体性の育成のために、さまざまな取組を進めていますが、宿題の廃止もそのうちの一つです。

以前、語らいサロン(<https://youtu.be/ohDzO1xZx6g>)でもご説明いたしましたが、改めて宿題廃止の意図を確認すると

- 1 学力は学校の学習時間でつける
- 2 小学生については、一律の宿題と学力の相関性はない
- 3 学校と家庭の役割を見直す

の3点です。

子どもたちは毎日学校で5時間、6時間と勉強しています。本来、それだけ勉強していれば十分だと思いませんか。しかし、ほとんどの方が家で勉強させないと心配だと思っています。なぜでしょう？ それは、保護者の皆様も経験あるこれまでの学校の授業というのは、勉強の時間になっていなかったからです。先生の説明を聞いて、ノートを取るだけでは勉強したことにはなりません。子どもたちが、自分で課題を見つけ、自分の頭で考え、仲間と意見を出しあい、教えたり教わったりしながら、課題をともに解決しようとするのが、今本校の目指す「学習時間」です。子どもたちは、学習時間内に脳をフル回転させ課題に向き合っています。「とりあえず聞いて、後で覚えよう」というのとは、全く次元の異なるものです。学習が楽しくなった子どもたちは、家に帰って勝手に学習するようになります。自分に必要なことを、自分自身が決定し実行できるようになります。逆に言えば、そうならない限り、いくら親や教師がやらせようとしても、学力はつかないのです。最近、小学生のうちに、そういう体験をできた子どもは、これまでの「普通の」小学生ではなく、「スーパー」小学生になると、子どもたちには話しています。

そのために大事なのが、大人の見守りです。子どもたちは必ず主体的に生きられるようになります。それを信じて待つこと。これは私たちには本当に難しいことではありますが、それ以外に子どもの主体性を引き出す方法はありません。お子さんと話をするなら、「宿題やったの？」ではなく、「今日は学校でどんなこと勉強したの？」と聞いてみてください。

今回、保護者の皆様に心配をおかけした最大の原因は、校長の考えが教員一人ひとりにきちんと落ちていなかったせいだということがはっきりしました。学校改革はいまだ道の途中で、学級によっても差があるのが現状です。それでも、私たちは日々研究を重ね、対話の機会を作りこの改革を成功させようと努力しております。今回の保護者アンケートを受け、これまで以上に方針の丁寧な説明を心がけ、経営の改善を目指してまいります。

ぜひ、子どもたちを信じて、今後とも学校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

私校長川中子ですが、2月7日にインフルエンザA型に感染・発症したのち、体調が戻らず再度精密検査を行いましたところ肺炎を発症しているとのことで急遽入院することになりました。2週間ほどの予定です。保護者の皆様や子どもたちにもご迷惑をおかけしますが、ご了承いただければ幸いです。